



野鳥の 不思議解明 最前線 #80 文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2012

採食中のコゲラ *Dendrocopos kizuki*。シジューカラだけでなく、コゲラもキジバトに反応しているみたい 撮影●内田博

ビビってたっていいんじゃない？

～ツミのいる林で警戒心が強くなるシジューカラ～

春から初夏にかけて、ツミの繁殖地を探すようになって、もう20年以上になります。これだけ経験をつむと、林に行けば、たとえツミを見つけることができなくても、占い師のように、その林にツミがいるかどうかをだいたいわかります。何故わかるかというと、ツミのいる林は、空気が張りつめているからです。シジューカラやコガラなど鳥たちがピリピリしている感じ。

73号の記事で紹介しましたが、国立科博の濱尾さんが、ウグイスがホトトギスの渡来前と後とでホトトギスに対する攻撃性を変えているという研究をしました。それに触発され、このピリピリ感も調べたらおもしろいのではないかと、この春、ツミのいる林とない林での鳥の警戒心の違いを調べました。

対象にしたのは、林に一番多くいるシジューカラ。濱尾さんのように剥製を使ったりして実験してもよいのですが、それも面倒なので、キジバトに対する反応をデータ化してみました。キジバトとツミはちょっと似ていて、上空をサッと横切るとツミと見間違えそうになることがあります。そんなツミに似たキジバトが林の上を横切った場合にシジューカラが示す反応を、強い反応、弱い反応、反応なしの3つに分けて、記録してみました。強い反応は、ツミが飛んだ時に出す、ツーツーツーという声を出した場合で、弱い反応はそれ以外の警戒声を出したり、さえずりを止めたりした場合です。そしてそれをツミのいる林5か所と、いない林8か所で調べ、比べて

みました。

その結果、ツミのいない林では、上空をキジバトが飛行しても、反応しないことが多いのですが、ツミのいる林では強い反応を示すことがわかりました。実際のツミへの反応はさらに強いですし、また、キジバトの場合には強い反応を示しても、すぐに警戒を解除しますが、ツミの場合はしばらくツーツーツーと鳴き続けていることが多く、反応には明らかな違いがあります。どうもシジューカラはちゃんとツミとキジバトは識別できるのですが、ツミのいる林では、危なそうな場合にはとりあえず反応するようにしているみたいです。人でいえば、ツミのいる林では、シジューカラはちょっとビビってるというところでしょうか？シジューカラにとって本当は危険でないキジバトに反応してしまって、たとえ気力体力をすり減らしてしまったとしても、ツミに反応しそびれて捕まってしまうよりは良いため、ツミのいる危険な場所では警戒を一段高めているのでしょう。「ビビってる」というと、なんだかマイナスなイメージがありますが、本当に危険な場所では、プラスのことなのでしょうね。

ところで、バードリサーチで一番のビビリといえは神山さんです。だれかが大きなクシャミでもしようものなら、「ヒィー」と悲鳴を上げます。現代でもその反応で、皆を楽しませてくれていますが、ヒトが猛獣におびえて暮らしていた昔、神山さんが皆を救っていたのでしょね。きつときつと！